

日本語学習者による「ても」の理解に関する一考察

—中国語母語話者への質問紙調査をもとに—

宮崎 聡子

1. はじめに

日本語教育において、条件表現、特に「～と・～ば・～たら・～なら」の順接形式については、四形式の使い分けが学習者にとって難しいものとして研究が盛んに行われてきた。一方で、いわゆる逆接条件の「ても」が適切に使えるかどうかについては、従来あまり注目されていなかった。しかし、実際には、学習者は次のような例文の場合、なぜ日本人は「たら」ではなく「ても」を使っているのが疑問に感じるようである。

A：あの旅館は、急に行っても泊まれないらしいですよ。

B：つまり、予約しなければならぬということですね。

(『中級から学ぶ日本語』10課)

このような問題に関して、白川 (2005) では、「～たら」の用法の不理解が原因となっていること、また田中 (2005) では、初級学習者には「ても」を使うべきところに使いやすい「～たら」を代用するという「たら」ストラテジーが見られることなどを指摘している。さらに、宮崎 (2010) では、「ても」を用いるべきところに「たら」を使う学習者の誤用は、中上級のレベルでも起こり得るものであり、英語母語話者については母語の影響も考えられ、教科書や学習者向け文法書の内容に改善が必要であることを主張している。また、陳 (2013) では、中国語母語話者の「ても」の不使用には母語が影響しているとし、日本語の「ても」と中国語の「也」の使用を対照させながら、中国語母語話者にとっての「ても」の理解上の困難点について考察が行われている。

本研究は、以上の流れを踏まえ、中国語を母語とする日本語学習者による「ても」の理解について、質問紙調査を用いることでその実態について明らかにしようとするものである。今回は予備的に行った質問紙調査の結果から、学習者と日本語母語話者の文法的判断の違い観察し、先行研究の指摘を検証するとともに、今後の再調査のための焦点を定めたいと考えている。

2. 先行研究

2.1 日本語学における「ても」の研究

日本語学における「ても」に関わる先行研究は多数あるが、ここでは、言語学研究会・構文論グルー

ブ(1986)、前田(1993)、前田(2009)を取り上げる。

言語学研究会・構文論グループ(1986)は、複文において「条件づけ」を表現するものを取り上げ、それを広い意味での因果関係を捉えるものとし、条件的な「すれば」「するなら」に対応して存在する「うらめし」な「しても」「するのに」について詳細な考察を行っている。そこでは、「しても」と「するのに」の違いについて、「つきそい文」(いわゆる前件)と「あわせ文」(いわゆる後件)が事実的であるか・条件的であるか、条件的な場合はポテンシャルであるか・非リアルであるか、また客体的であるか・主体的であるかといった観点から記述が行われている。そして、「ても」は事実的なもの、条件的なものも表すことができ、「状況の変更が出来事にいかなる影響もあたえない、という客観的な事実の描写」(p.51)になる、とされている。リアルか、非リアルかといった「リアリティー」の概念は、次の前田氏の研究に引き継がれる。

前田(1993)では、「ても」を「テ形の取り立て」であるという立場に立ち、その用法を、「て」の並列、「並列条件」、「並列・逆接条件」、「逆条件」の4種に分けている。この中で「並列条件」、「並列・逆条件」、「逆条件」の3種が従属節を導く接続助詞としての「ても」の用法だとしている。例文を挙げておく。

- (1) 3を自乗すると9になるし、-3を自乗しても9になる。(並列条件)
- (2) 結婚すれば悔恨あり、結婚しなくても悔恨あり。(並列・逆条件)
- (3) 「このカメラ水にぬれたらこわれてしまいますか」
「いいえ、防水ですから、ぬれてもこわれません」(逆条件)

そして、「ても」の用法は、「大きく「条件の並列(=並列条件)」と「条件の否定=(逆条件)」の2つに分けられ、この両者は連続的に存在」(p.163)し、「ても」の本質は並列条件の用法であるが、中心的な用法は逆条件の用法であると結論付けられている。

また、前田(2009)では、原因・理由文やいわゆる譲歩文までを含めて、因果関係を持つ文を「論理文」として一括して扱う際、「リアリティー」による分類が有効だと提案している。リアリティーに注目して条件文を分類すると、以下のようにになると述べている(p.38)。

- (1) 仮定的リアリティー：未実現の事態を「仮定」
仮説的リアリティー：これから生起する可能性のある事態
例文「このボタンを押せば、水が出るだろう。」
反事実的リアリティー：実現しなかった事態を、仮に実現したと仮定する
例文「このボタンを押せば、水が出たのに。」
- (2) 非仮定的リアリティー：前件・後件がともに既に生起した事実

事実的レアリティー：前件・後件ともに事実

例文「太郎が殴ると、花子が泣き出してしまった。」

仮定的レアリティーとの中間的な存在：一般条件・恒常条件、反復・習慣

例文「水は百度になると沸騰する。」

「若い頃はお酒を飲むと頭が痛くなった。」

(3) 非条件的レアリティー：複合動詞を構成する用法、後置詞的用法

例文「このクラスには日本人もいれば外国人もいる。」

前田 (2009) においては、このレアリティーの分類による分析結果の記述は、順接の「～と・～ば・～たら・～なら」が中心となっている。このようなレアリティーの観点からの「ても」の分析を、本稿も取り入れたいと考える。

2.2 日本語教育における「ても」の研究

日本語教育における「ても」に関する研究については、「ても」の用法の広さを示し教育への提言を行っている田中 (1989)、学習者が母語によらず「ても」を適切に使えず、そこに「たら」を用いる現象について教材からの影響があることを問題点として指摘した宮崎 (2010)、中国語母語話者からみた「ても」の理解上の困難点について論じている鄭 (1993)、陳 (2013) がある。以下、順にみていく。

田中 (1989) では、逆接、または譲歩と呼ばれる「ても」の条件文はその対象の複雑さによって、表現の種類というもの必ずしも考察されてはいないとし、「ても」の用法を中心的なものから周辺のものまで例文とともに網羅的な記述を行っている。そこでは、意味的な分類として、仮定逆接条件、確定逆接条件、「てもいい」、強調の表現 (慣用用法、並列の用法、対比の用法、反復の用法、例示的用法)、文末の慣用表現、無条件、談話に見られる機能、そのほか類義的な用法、が挙げられている。学習者に向けては、単なる条件的な意味にとどまることなく、場面性を与え、より語用論的な規点の導入によって複文の論理的な関係を認識させていくことが必要だとしている。

宮崎 (2010) では、学習者が「ても」を使うべきところに「たら」を用いる誤用が、母語やレベルに関わらず見られることに関して、誤用の背景と、初級教科書や学習者向け文法解説書にどのような改善が必要かを検討している。そこで指摘されている問題点は、以下の4点である。

- ①初級教科書で示される「ても」の例文は「たら」と対比させた形で逆接条件のみの用法を提示するのが一般的となっている。
- ②「ても」で表される反期待性が、文化背景や社会通念に基づいているものについて、前提となる知識を提示することへの配慮が不足しており、例文が文脈なしに単文レベルで提示されている。

る。

- ③学習者向けの解説書などに、誤用を防ぐような的確な情報を載せることも必要である。例えば、英語の "even if" と「ても」の使用範囲にはズレがあることが明らかにされているが、指導の際には十分な説明がなされておらず、学習者の誤用を招く落とし穴になっている。
- ④論理的に「たら」のような順接の表現と置き換えられるような場合、学習者は産出レベルにおいて逆接の「ても」を使うことを想定しにくく、また理解レベルにおいても、混乱が起きやすいと考えられる。

ここでは、教育上大切になってくる点についての指摘は行われているが、教科書や文法書の問題点に重点が置かれ、学習者の使用実態についての考察は不十分に終わっているといえよう。

次に中国語を母語とする日本語学習者からのアプローチとして、鄭（1993）、陳（2013）をみる。

鄭（1993）は、日中の条件の接続表現を比較し、中国語には日本語のような多様性が見られないとしている。そして「ても」に関しては、「中国語の「即使…也・就是…也」などは、譲歩句にしか用いられないが、日本語の「～ても」が仮定の接続ばかりでなく、確定の接続にも用いられるという点に注意しなければならない」（p.120）との指摘がある。例えば、「ひどく暑くても、だれも暑いとは言わなかった。」というような文の場合、「ひどく暑い」ということは仮定して言うものではなく、過去にあった事実への叙述であり、中国語では「ひどく暑かったが、だれも暑いとは言わなかった。」のような表現になるという。そのため、中国語話者の学習者にとって前者の例のような「ても」の確定の用法は非常に理解しにくいもので、学習者は上のような場合、「ても」を用いることはほとんどない、としている。中国語と日本語を比較し、興味深い指摘は行っているが学習者の実際のデータについては詳細が示されていない。

陳（2013）は、中国語母語話者の「ても」の不使用について、実際の事例を観察しながら「ても」の原理自体を見直し、また「ても」の理解上の困難点を検討している。その中で、中国語母語話者にとっては、「日本語のテモの裏にある「期待の内容」を想定することに馴染みがない上、さらに期待の内容にテモを含む状況に出会った際に、いわゆる順接と逆接の判断を行うことは必ずしも容易とは言えない」（p.245）としている。ここでキーワードとなっている「期待の内容」に関する説明を詳しく見ておく。陳氏は、「期待の内容」から「逆接テモ文」をAタイプとBタイプに分類し、以下に挙げる例文（2）～（5）について、中国語では順接表現を使うため、日本語にした時「ても」は使いにくいとしている。

〈期待の内容から見た逆接テモ文の分類〉（p.243）

Aタイプ：ある条件の下で、当然起こると期待される事柄が起こらないことを述べるだけ。期待の内容には、1つの順接条件のみが含まれる。

(1) 雨が降っても出かける。

期待の内容：雨が降ったら出かけない。

(2) 以上紹介した値段はもし(変わっても/*変われば)別に告知しません。

期待の内容：値段が変われば告知する。

(3) (午後友人とお茶を飲みながら)

「お茶を(飲んで/*飲むと)、今夜眠れますか」

期待の内容：お茶を飲むと寝られない。

Bタイプ：期待の内容は順接のテモを含んでいる。順接のテハでも表現できるもの。

(4) この製品は「ダヴクリーミー泡洗顔」専用です。他の製品につめかえても泡になりません。

期待の内容：本来の製品につめかえたらもちろん泡になる。他の製品につめかえても泡になる。

(5) A：あの旅館は急に行ってもとまれないらしいですよ。

B：つまり、予約しなければならぬということですね。

期待の内容：予約すればもちろん泊まれる。直接行っても泊まれる。

中国語母語話者にとっては、「期待の内容」の違いにより順接と逆接の判断が容易ではなくなるといった指摘は興味深い。実際に学習者がこのA・Bのタイプの違いにより、理解の困難さを感じているのかの検証がないことや、またBタイプのような「期待の内容」を母語話者も持っているのかどうかについて疑問が残る点など、検討の余地があると考えられる。

以上みたように、「ても」の意味・機能や用法の広がりについては一定の研究結果があり、また、学習者の母語の影響といった対照言語学的な観点からも指摘がなされてきている。しかし、実際に日本語学習者がどう「ても」を使っているか、また文法的な判断をしているか、という点について日本語学習者への調査は行われておらず、詳細は明らかにはなっていない。

3. 初級教科書・学習者向け参考書の扱い

ここでは、日本語学習者が文法を学ぶ際の入り口となる教科書の記述についてみておく。代表的な初級教科書である『みんなの日本語 I』の中国語解説版は、以下のような解説を載せている。

〈日本語訳〉

「て形+も、～」の句型は、逆接条件を表す。「～たら、～」と反対に、ある条件の下で当然期待される行為をしなかったり、期待される状態が起こらなかったり、また一般の人の考え方と逆の結果が現れたときに使う。

(例文) 雨が降っても、洗濯します。

安くても、私はグループ旅行が嫌いです。

便利でも、パソコンをしません。

日曜日でも、働きます。

(『みんなの日本語初級 I 翻訳・文法解説中国語』 pp.160-161)

いずれも、「雨が降ったら洗濯しない」「安いのであればグループ旅行を好む」「便利ならパソコンを使う」「日曜日なら休む」といった、一般的な期待を覆す逆接条件の例文が示されている。この段階では、並列条件用法、事実的用法、反事実的用法などの例は出されていない。

次に、中上級者向けの参考書として、中国語翻訳版が普及している『中文版 日本語句型辞典』(くろしお出版)を見る。ここでの「ても」の解説はおおむね前田(1993)の分類に沿って整理され、それぞれに中国語で解説、例文訳がついている。そこでは、「1…ても〈逆接条件〉即使…也…。」「2…ても〈並列条件〉」「3疑問詞…ても」「4…ても…ただろう 即使…也…。」「5…ても…た 即使…也…。」のように下位分類されそれぞれの使用方法について、ポイントが書かれている。しかし、今回問題となっているような順接・逆接の区別があいまいになるようなタイプについては、特に言及はない。

4. 調査の概要

4.1 調査の目的

本調査の目的は、中国語母語話者が「ても」の適切さについてどのように判断しているかを調べることである。特に、先行研究で理解の困難さが指摘されていた事実的な文、また「期待の内容」(陳2013)に左右される文についての理解度を調査項目とする。また、そのほかに、3節で見た初級の導入項目としては取り上げられていない「並列条件」の用法、「反事実」の用法、田中(1989)で用法の広がりとして取り上げられていた慣用表現的な用法についても、調査項目として取り入れた。これらについて、学習者と日本語母語話者との文法的な判断の違いを見ることにより、「ても」のどのようなタイプの文が問題となるのかを明らかにしたいと考える。

4.2 調査方法と調査対象

調査は、2013年10月に台湾台北市にある大学の日本語学科にて行い、台湾人日本語学習者150人の調査協力を得た。調査対象者の日本語のレベルは、日本語学科に在籍する学部3、4年生で、日本語能力試験のN2級合格レベルであるが、N1級合格者、また級未取得者も含まれている¹⁾。初級時に使用した日本語教科書は『みんなの日本語(中国語タイトルは「大家的日本語」)』、『新文化日本語』である。本稿で報告するのは、このうち、3年生50名、4年生50名の計100名を無作為に選び集計したものであり、中間報告であることを断っておく。

調査方法は質問紙法で、「ても」を用いた文、あるいは他の接続表現を用いている文についてその文法性判断を問い、文に合っていないと思われるものは修正をさせるものであった。具体的な回答方法は次のようになる。

例1) 適切だと思った場合、「○」を書き入れる。

明日は雨が（降っても→ ○ ）遊びに出かけます。

例2) 適切ではないと思った場合、より適切だと思うものを書き入れる。

一生懸命（勉強したのに→勉強したので）合格しました。

例3) 分からない場合は、「?」を書き入れる。

一生懸命（勉強したのに→? ）合格しました。

質問文は、「ても」の用法を問うものを中心に、ダミーも含んだ36問を用意した。本稿では、このうち、ダミーを除いた28の文について特徴的な部分を取り上げながら検討する。

なお、「ても」の使用が適切かどうかについて基準を定めるため、日本語母語話者（岡山大学の学部生15名）にも質問紙調査を実施した。日本語母語話者の回答で「ても」を使うという回答率（以下「「ても」の選択率」とする）が高かったものについて、日本語学習者はどのように判断しているかに注目し考察を行う。

5. 結果と考察

【付属資料】に調査例文と回答数及び「ても」の選択率をまとめた表を挙げた（「ても」の選択率の降順）。以下に挙げる例文の番号は、その表の①～⑳の番号に対応している。以下、5.1において、「学習者の回答が、日本語母語話者の回答と一致したもの」について、5.2において、「学習者の回答と日本語母語話者との回答に開きがあったもの」について見ていく。そして、5.3において、文化的背景の影響に関して言及する。各例文の末尾にある【 】内の数値は、学習者が「ても」を選択した割合であり、（ ）内の数値は、日本語母語話者が「ても」を選択した割合である。

5.1 学習者の回答が日本語母語話者の回答と一致したものについて

日本語母語話者が「ても」を使うのが適切だと判断した例文のうち、学習者も同様に判断した例文についてみていく。「ても」を選んだ学習者の割合が約8～9割で、選択率が高かったといえるものは、次のような例文である。選択率が高い順から挙げる。

①あの俳優は、「親が（亡くなくても→○）舞台公演を休まない」と言っている。【90%】（100%）

②明日は雨が（降っても→○）遊びに出かけます。【89%】（100%）

③雨が（降っても→○）試合は行われた。【80%】（87%）

④父は（年を（取ったら→取っても））ずっと働きたいと言っている。【79%】（100%）

①、②、④は仮説的レアリティーの文で、いわゆる逆接条件の文である。また、陳（2013）の「期待の内容」については、①は「親が亡くなったら講演を休む」②、「雨が降ったら出かけない」、④「年を取ったら働かない」、のように「期待の内容」に1つの順接条件のみが含まれるAタイプのものである。

③は文末が過去形の事実にレアリティーの文である。鄭（1993）の指摘では、確定である「～ても～た」のような文は、中国語話者には難しいとされていたが、今回のアンケートでは「ても」の選択率は低いとは言えないようである²⁾。「期待の内容」についても、「雨が降ったら試合は行われぬ」という順接条件が1つ含まれるAタイプものと考えてよいものと思われる。なお、反事実的レアリティーの文としては、次の2文について調査を行ったが、選択率は高いとは言えないまでも、60%は超えた。

⑦雨が（降っても→○）試合は行われたらう。【67%】（93%）

⑧両親が（反対したら→反対しても）日本に留学したらう。【62%】（87%）

これについては、母語話者の回答にもわずかだが揺れが見られたため、学習者・母語話者双方の調査数を増やし、質問文も検討し直しさらに調べる必要があると考える。

ここで、仮説的レアリティーで、「期待の内容」がAタイプのものであっても、相対的にみると「ても」の選択率が少し下がるものも見られたことについて言及しておく。

⑫このカメラは防水なので、水に（濡れたら→濡れても）壊れません。【61%】（100%）

⑬台湾に（帰ったら→帰っても）日本のことを忘れないでください。【56%】（100%）

⑫に関しては、なぜ「ても」の選択率が下がったかについては、引き続き集計数を増やすなどして明らかにしなければならない。学習者が「ても」以外の回答をした内訳については、「濡れたら」をそのままよとした回答が20%、「なら」「ば」等が12%あった。⑬の「ても」選択率が下がっていることに関しては、後件が依頼の表現になっており、初級において「～たら」が導入される場合、「空港に着いたら、電話をしてください」のような例文がよく用いられる影響で、回答の際に「～たら」をそのままよとしたことが考えられる。また、「帰ったら」を選択した学習者のインタビューのコメントには、「帰ったら」は「帰った後で」という意味だから、「帰った後でも忘れない」という意味で回答した、というものがあつた。このように学習者には、「～たら」＝「～た後で」と捉えた結果

「～たら」を選択する傾向があることが伺えた。

5.2 学習者と日本語母語話者との回答に開きがあったもの

日本語母語話者が「ても」を使うのが適切だと判断した例文のうち、学習者がそのようには判断しなかった、つまり、日本語母語話者と学習者との判断の開きが大きかったものについてみていく。

⑮この製品は、「Doveクリーミー泡洗顔」専用です。他の製品に（詰め替えても→○）泡になりません。【51%】（87%）

⑲あの旅館は急に（行っても→○）泊まれないらしいですよ。【48%】（87%）

⑳こんなにたくさんお酒を（飲んでも→○）朝、起きられますか？【14%】（67%）

㉑こんな時間にコーヒーを（飲んだら→飲んでも）寝られますか？【9%】（87%）

⑮、⑲は、陳（2013）の「期待の内容」のBタイプの例文であり、⑳、㉑は「期待の内容」のAタイプのものである。⑮では「詰め替えたら」「詰め替えるなら」に、⑲では「行ったら」に、⑳では「飲んだら」に、いずれも順接の条件表現形式に書き換える学習者が目立った。陳氏の考察によると、中国語母語話者にとってはBタイプのほうが特に理解が困難であるとしていたが、今回の調査では、Aタイプの例文でも「ても」の選択率が低かったものが目立った。よって、先に5.1でみた、「期待の内容」がAタイプであれば、「ても」選択率が高くなるという傾向は、必ずしも結論付けられないことになる。ここであげた、Bタイプの例文の特徴としては、Aの⑳、㉑は会話文で、また前件に「こんなに」という眼前で起こっていることをさす要素があるため、典型的な仮説的レアリティーではなく事實的レアリティーであること、また発話者が聞き手に対し、「心配」「懸念」といった感情を持って発話しているという特徴がある。一方、Bタイプの⑮は、商品の注意書きというテキストであることが特徴的である。このように「期待の内容」以外の要因もからんでいると思われるため、詳細を見るには、質問文の検討が更に必要であると考ええる。なお、⑳については、日本語母語話者の「ても」選択率も67%と高いことについては注意しなければならない。「飲んでも」以外の回答には、「飲んだら」「飲んで」というものが見られた。㉑についても、「飲んで」に修正する回答が少数ではあるが存在するため、もとの文の適切性について検討が必要である。

次のような例文についても学習者の「ても」の選択率は低く、「ても」の選択率が100%である日本語母語話者との差が大きくなっている。これらは、話者A、話者Bの対話形式で、Aの期待をBが拒否するというものである。

⑳ A：日本語のレポート手伝ってよ。

B：そんなこと私に（頼まれて→頼まれても/頼んでも）無理だよ。【48%】（100%）

㉓ A：明日のアルバイト、交替してくれないかな？

B：そんなこと急に（言われても→○）困るよ。【30%】（100%）

㉗ A：残さないで、たくさん食べてね。

B：こんなにたくさん（並べると→並べても/並べられても）食べきれないよ。【7%】（100%）

これらも先ほどの㉓、㉗と同様に、前件には「そんなこと」や「こんなに」が用いられていることから、既に状況が発生しており、典型的な仮定条件ではない。前田（2009）では、「深々と頭を下げられると、晶子はそれでもなんでも、知らぬ顔も出来なくなる」という例文を挙げて、このように前件のリアリティーが事実であるタイプを「事実的な仮説条件文」と呼び、基本となる仮定条件とは区別している。前田氏は、「順接の場合に見られる興味深い現象として、前件のみが事実である（即ち、実現している）条件文がある」（p.32）としているが、「ても」の用法にもそれが見られる。今後、こういった「ても」の母語話者の用法について記述する必要があると考える。

また、主節に関して、文末に用いられる「～でも無理だ」「～でも困る」という表現は、「～でもいい」「～ではいけない」といった評価のモダリティーとつながることも予想される。これについても、稿を改めて考察したい。

次に、並列条件についても以下に見るように「ても」の選択率が低い。並列条件とは、「新たな条件・状況が起こった場合に、先行する条件文と帰結が変わらないこと」（前田1993:154）を示し、「二つ目の条件文では必ず、テモを用いなければならない」（前田1993:154）というものである。

㉑新幹線で行くと2万円ぐらいかかります。飛行機で（行っても→○）2万円ぐらいです。

【33%】（100%）

㉗2を自乗したら4になります。-2を（自乗したら→自乗しても）4になります。【8%】（60%）

3節で見たように「並列条件」が初級での指導項目になっていないことも影響があると考えられるが、中国語で強い譲歩の意味を表す「即使～」を用いないタイプの文で、順接表現で表されるタイプである可能性がある。㉗に関して、日本語母語話者の「ても」選択率が㉑より低くなっている。予想としては、㉑と同じタイプなので、「ても」の選択率に差は出ないと思われていたののでどういったことが影響しているのか考察が必要である。現時点では、㉑が個別の事態で、㉗は一般的法則という違いしか指摘できない。追跡調査の際には、㉑と㉗における（ ）内の提示方法を入れ替え、それぞれ「行ったら」「行っても」で提出した場合と違いが出るかを見たり、2文ではなく、前件を「2を自乗したら4になるし」のように従属節を用いて1文で提示した場合の変化を見る必要がある。

次に、田中（1989）において挙げられていた「ても」の慣用表現（㉑）、談話的用法（㉒）など周

辺的な用法について、いずれも、「ても」の選択率は低かった。

⑱娘がかわいくて、目の中に（入れれば→入れても）痛くない。【37%】（93%）

⑲授業に出ないの？先生に（叱られても→○）知らないよ。【40%】（100%）

⑱について、フォローアップインタビューでは、このような言い方自体を知らないと答えた学習者が複数いた。この慣用句を知らない場合、かわいいことを表すことと、目の中に入れるということが結びつきにくかったようである。⑲について文末の「知らない」を「理解できない」「わからない」という意味で取り、正しい文意を理解できていない学習者がいた。

最後に、学習者の「ても」の選択率が低いものの中で、日本語母語話者の「ても」の選択率が非常に低くなっていた例文があったことについて言及しておかなければならない。それは、次の例のような、文末が過去である事實的レアリティーの文についてである。

⑳頭痛が（ひどかったら→ひどくても）アルバイトは休まなかった。【45%】（27%）

日本語母語話者は全員が「ひどかったら」を不適切だと判断したことでは一致しているのだが、その修正方法として「ひどかったが」「ひどかったけど」のような逆接の表現を選んだ人が53%と半数以上であった。また、反事實的レアリティーの文だと捉え、「頭痛がひどくなかったら、アルバイトは休まなかった」とした回答もあった。一方、学習者で「ても」を選択しなかった回答の内訳は、「ひどかったら」を適切だと判断し、そのまま「○」にしたものが12%、「のに」が15%、「ので」が12%「が・けど」が6%といったように、順接表現・逆接表現についてもばらつきが見られた。このことから、文末が過去の場合、母語話者は「ても」ではなく他の逆接表現を思い浮かべる傾向があることが伺える。また、反実仮想の文を想起しやすくなることもわかった。再度、調査をしたいと考える。

5.3 文化的背景について

今回の調査にあたり、推論に文化的な背景知識が必要なタイプのを例文に取り上げた。なぜなら、宮崎（2010）で指摘されているように、教育現場において多国籍クラスの場合、日本的な社会通念を前提にした例文では、学習者によって理解に支障が出ることがあるからである。予想では、これらについては、回答が分かれる可能性があると考えられたが、「ても」の選択率は概ね高かった。例文①と④は再掲である。

①あの俳優は、「親が（亡くなっても→○）舞台公演を休まない」と言っている。【90%】（100%）

④父は「年を（取ったら→取っても）ずっと働きたい」と言っています。【79%】（100%）

⑨私の国では、女性は（結婚したら→結婚しても）名前を変えません。【64%】（93%）

これらの例文は、「親が亡くなった場合、仕事を休むか休まないか（公か私か）」「年を取ったら働かないか、働くか」「(日本では)結婚したら女性は姓が変わる」といった社会通念³⁾が関わるものである。これについては、台湾と日本が文化圏としては近いものであり、例文の内容が社会文化的価値観として共有できるものであるため、理解に影響はなかったと考えられる。よって、同じような社会通念を持っている場合は、「期待の内容」の推測にも支障が出ず、日本語母語話者と判断が一致すると思われる。⑨に関しては①④に比べると、数値が低いだが、これは「結婚したら」を「結婚したあとで」と読み替えた可能性がある。数人にインタビューしたところ、日本で女性が結婚後に姓が変わることはよく知られているとのことだった。この社会通念が条件表現の文法的な判断にどう影響してくるかについては、他の言語を母語とする学習者への調査を行い、比較しながら考える必要がある。

6. まとめと今後の課題

今回の調査では、中国語を母語とする学習者の「ても」の文法的判断について質問紙調査を用いた調査を行い、日本語母語話者の「ても」選択率と比較した。その結果、「ても」の選択率が高く日本人と判断が一致するものと、反対に「ても」の選択率が低く一致しないものがあることが明らかになった。簡単に表にまとめると以下のようになる。

「ても」の選択率の高かったもの	「ても」の選択率の低かったもの
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説的レアリティーで「期待の内容」A (例文①②④) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説的レアリティーで「期待の内容」B (例文⑮⑰) ・ 前件が事実的な仮説的レアリティー 「期待の内容」A (例文⑳㉑) 相手の期待を否定 (例文⑳㉒㉓) ・ 並列条件 (例文㉔㉕) ・ 慣用句的・談話的表現 (例文⑳㉖)

中国語を母語とする日本語学習者の「ても」の文法性判断については、先行研究で指摘されていた「期待の内容」に関わる場合、「ても」の選択率が下がることが明らかになった。また、レアリティーの観点からは、前件が事実的なものについて、話し手の「懸念」を表したり、相手の期待を否定したりする場合、「ても」を選択しない傾向がよみとれた。さらに、初級で指導される逆接条件のタイプではない「並列条件」等についても、学習者は「ても」を選択するのが難しいことがわかった。一方で、事実的・反事実的な文については、設定した例文の文意が母語話者間でもあいまいになるものがあり、学習者の「ても」選択率についても決定的なことは言えなかったことは課題が残った。そのほか、フォローアップインタビューでのコメントでは、「～たら」は「～した後で」に置き換えられる

場合に使う」、「もし〜」とあれば後件は「ても」ではなく「ば」や「たら」がくる」など、必ずしも正しいとは言えないものがあり、学習者が単純化された独自のルールで判断しているものがあることが伺えた。

今後の課題としては、まず、例文について「前件・後件のリアリティー」「期待の内容」「ポテンシャルな事態（一般論的）かアクチュアルな事態（個別的事象）か」「社会通念との関連性の度合い」といった観点を更に厳密化し、網羅的に整理した例文を設定した上で調査を行うことがあげられる。また、教育的視点からは、日本語のレベル差がどのくらい結果に反映しているのかについても見ていく必要があると考える。

今回は考察の中でも課題として残されたものも多く、中間報告的なものに留まっているため、本稿の結果を踏まえ集計数を増やすとともに、中国語から日本語への翻訳テスト、また日本語への翻訳テストといった方法の質問紙による調査結果も合わせて分析し、本調査においてさらに信頼性のある結果が得られるようにしたいと考える。

【注】

- 注1) 100名中、日本語能力試験各級の合格者数は、N1が10人、N2が42人、N3が7人、未取得者が41人となっている。
- 注2) 文末が過去である場合について、さらに明確にするためには、まず母語で事実的・確定的な状況を設定し、それを日本語にした場合に「〜ても〜た」が使用されるのかを調べる必要がある。それについては、今後中国語を日本語で訳すといった調査の結果をみることにする。
- 注3) 寺村 (1978) において、テモは、タラ・ノニとともに「社会通念に依存する表現」として取り上げられている。これらの語法については、一般に外国語を学習する者にとっては自己充足的な文の意味、用法に比較して習得の困難なものであり、それらを統一的に、できるだけ客観的な基準で理解させることは言語教育上も肝要なことだと思われる、と述べられている。

【参考文献】

- 寺村秀夫 (1978) 「語法と社会通念」『日本語・日本文化』8号 大坂外国語大学留学生別科言語学研究会・構文論グループ (1986) 「条件付けを表現するつきそい・あわせ文 (4)」『教育国語』むぎ書房
- 田中 寛 (1989) 「逆接の条件文〈ても〉をめぐって」『日本語教育67号』日本語教育学会
- 鄭 亨奎 (1993) 「条件の接続表現の研究—中国語話者の学習者の立場から—」『日本語教育79号』日本語教育学会
- 前田直子 (1993) 「逆接条件文「〜テモ」をめぐって」益岡隆志編『日本語の条件表現』くろしお出版
- (2009) 『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 市川保子 (1997) 『日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 蓮沼昭子・有田節子・前田直子 (2001) 『条件表現』くろしお出版
- 白川博之 (2005) 「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 田中真理 (2005) 「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 宮崎聡子 (2010) 「日本語学習者にみられる「たら」と「ても」の混同に関する一考察」『日本語教育研究18』韓国日語教育学会
- 陳 昭心 (2013) 「テモの不使用についての一考察—中国語の母語干渉の観点から」『日本語/日本語教育研究4』ココ出版

【参考資料】

『中文版 日本語句型辞典』(2001) くろしお出版

『中級から学ぶ日本語』(2003) 研究社

『みんなの日本語 初級 I 本冊』(1998) スリーエーネットワーク

『みんなの日本語 初級 I 翻訳・文法解説中国語版』(1998) スリーエーネットワーク

【付録資料】中国語を母語とする日本語学習者による「ても」の選択（日本語母語話者との比較）

	例文	中国語母語話者			日本語母語話者			
		ても 選択率	他 表現	「？」	ても 選択率	ても 選択	他 表現	ても 選択率
①	(24) あの俳優は、「親が（亡くなっても→）、舞台公演を休まない」と言っている。	90	7	3	90%	15	0	100%
②	(3) 明日は、雨が（降っても→）遊びに出かけます。	89	11	0	89%	15	0	100%
③	(19) 雨が（降っても→）試合は行われた。	80	17	3	80%	13	2	87%
④	(10) 父は「年を（取ったら→）ずっと働きたい」と言っています。	79	19	2	79%	15	0	100%
⑤	(15) A：ここは空港バスの停留所じゃないから、ずっと（待っていたら→）バスは来ませんよ。	74	19	7	74%	15	0	100%
⑥	(36) 今晩は（遅くても→）11時には帰ります。12時にはありません。	71	24	5	71%	15	0	100%
⑦	(7) この単語の意味は辞書を見たら（→）分かりません。	70	29	1	70%	15	0	100%
⑧	(11) 雨が（降っても→）試合は行われただろう。	67	26	7	67%	14	1	93%
⑨	(27) 私の国では、女性は（結婚したら→）名前を変えません。	64	36	0	64%	14	1	93%
⑩	(26) 花火の音がとても大きかったので花火大会が（終わったら→）まだ耳に音が残っている。	63	37	0	63%	15	0	100%
⑪	(14) 両親が（反対したら→）日本に留学しただろう。	62	26	12	62%	13	2	87%
⑫	(2) このカメラは防水なので、水に（濡れたら→）壊れません。	61	38	1	61%	15	0	100%
⑬	(8) A：留学中は大変お世話になりました。 B：台湾に（帰ったら→）日本のことを忘れないくださいね。	56	43	1	56%	15	0	100%
⑭	(34) A：電話をかけてきた人、どんな人だった？ B：どんな人って（言ったら→）顔を見てないんだから分からないよ。	54	38	8	54%	15	0	100%
⑮	(30) 〈商品の注意書き〉この製品は、「Doveクリーミー泡洗顔」専用です。他の製品に（詰め替えても→）泡になりません。	51	43	6	51%	13	2	87%
⑯	(21) A：日本語のレポート、手伝ってよ。 B：そんなこと私に（頼まれて→）無理だよ。	48	48	4	48%	15	0	100%
⑰	(18) 頭痛が（ひどかったら→）アルバイトは休まなかった。	45	49	6	45%	4	11	27%
⑱	(35) A：今日もう帰る。B：授業に出ないの？先生に（叱られても→）知らないよ。	40	44	16	40%	15	0	100%
⑲	(22) 娘がかわいくて、目の中に（入れれば→）痛くない。	37	42	21	37%	14	1	93%
⑳	(9) 新幹線で行くと2万円ぐらいかかります。飛行機で（行っても→）2万円ぐらいいです。	33	63	4	33%	15	0	100%
㉑	(28) 娘：もし寝ていたら、起こしてね。友達と約束があるから。 母：わかった。もし（寝ていても→）起こすのね。	31	61	8	31%	9	6	60%
㉒	(12) A：明日のアルバイト、交替してくれないかな？ B：そんなこと急に（言われても→）困るよ。	30	65	5	30%	15	0	100%
㉓	(23) A：あの旅館は急に（行っても→）泊まれないらしいですよ。B：つまり、予約が必要だということですね。	29	70	1	29%	14	1	93%
㉔	(31) 〈ホテルのホームページ 客への注意書き〉お客様へ：以上に紹介した価格が、もし（変更すれば→）事前にお知らせはいたしません。	14	77	9	14%	13	2	87%
㉕	(20) A：明日は朝早く出勤でしょう？こんなにたくさんお酒を（飲んでも→）朝、起きられますか？	14	85	1	14%	10	5	67%
㉖	(17) (夜、10時頃、カフェで) A：こんな時間にコーヒーを（飲んだら→）寝られますか？	9	90	1	9%	13	2	87%
㉗	(5) 2を自乗したら4になります。-2を（自乗したら→）4になります。	8	82	10	8%	9	6	60%
㉘	(33) A：残さないで、たくさん食べてね。 B：こんなにたくさん（並べると→）食べきれないよ。	7	83	10	7%	15	0	100%